

緊急特集 しし座流星群について

今回は今までとはまったく違った特集です。特にパソコンとは関係ありませんが、「しし座流星群」の特集です。

しし座流星群は1998年11月17日から18日にかけて大出現するといわれ、いつもは星なんか見ない人まで空を見上げてみたものでした。残念ながら北陸では天候が悪く、また、最大が午前4時ごろであったために余り見れなかったようですが、場所によっては明るい火球がいくつも見られたようです。流星は宇宙に漂うチリや小天体が地球の大気圏に突入しそのときの摩擦熱で発光するもので、普通のおときでも1時間も空を見上げていれば1つぐらひは流れています。このしし座流星群の元になるチリはテンペルタットル彗星から放出されたもので、彗星の起動に沿って分布しています。これをダストチューブといいます。このチューブを地球が通過するとき流星が発生するためいつもよりたくさん発光し流星群といいます。このテンペルタットル彗星は33年の周期で太陽の周りを回っているため、しし座流星群のダストチューブはある程度の大きさを持ち各周回毎のチリの雲が存在します。去年の流星群は33年目のテンペルタットル彗星が地球の起動のそばを通過した後に地球が通過したため、これが18日の明け方でした。ほかに17日の午前11時ごろにも極大となりましたが、これは、1333年のチリの雲の中を通過したためのものでした。

国際流星機構には面白い表現があり、天頂1時間出現数（ZHR：地上の観測者が天頂を中心とする半径60度の範囲の星空を望み、放射点が天頂にある流星群の6.5等級より明るい流星の1時間の数）が数百のものを流星雨、数万以上のものを流星嵐といいます。1998年の場合は180±20でかろうじて流星雨ということが出来ます。これまで最も多く流星を観測したのは1833年と1966年で、それぞれ1800年と1899年にできたチリの雲の中心部を地球が通過したためと考えられています。

さて今年ですが、もちろん去年のようなことはありませんが、1899年のチリの雲の中心は通過しないものの至近距離をかすめるため、ある程度の流星は期待できます。ただ出現のピークは11月18日の午前11時ごろで、ヨーロッパでは1時間に1500個程度の出現が予想されています。日本では18日の未明に1時間当たり100個程度が期待され、月が沈む夜半すぎから観測条件は良くなります。しし座は午後11時ごろに地平線を離れますが、午前1時ごろには東の空の適当な高さにあがるため観測しやすくなります。それから午前4時のしし座が高くのぼり、まだ薄明が訪れないころまでが観測の好機です。

いろいろな明かりが巷にあふれ、昔のようにたくさんの星が見れなくなってきましたが、流星群が話題になったときぐらひ、パソコンの画面ばかり見て疲れた目を夜空に向けて流れ星でも眺めてみてはどうでしょうか。しばらく見ていると、こんなに星があったのかと再認識できるものです。ちょっと寒いかもしれませんが。

(情報誌トピックス)

○日経エレクトロニクス 11月15日号

特集 音楽も、ゲームも、電子取引も、ケータイが飲み込む

→インターネットに接続できるようになった携帯。液晶のカラー化、画像再生機能に対応し携帯は単なる電話から携帯情報機器へと変貌を遂げる。

解説 DRAM代替を狙う新メモリ「MRAM」

→磁気抵抗効果という磁気を利用してデータを記憶する新メモリが次期のメモリとして一躍注目を浴びている。MRAMはSRAM並みの書き換え時間で、VRAM並みの集積度が可能で、不揮発性のメモリで、これまでは宇宙空間用などの一部でしか用いられていなかったが、IBMやモトローラは大市場をつかむ可能性を秘めているところに注目している。

○日経パソコン 11月15日号

特集 ハードディスクトラブルからの完全復活マニュアル

→ハードディスクから異音がする、不安定なエラーが頻発するなどの原因はハードディスクのことも多いが、復活のための対処には定石が必ずある。問題解決に役立つ対処方法をハード側ソフト側から一挙紹介。

○日経オープンシステム 11月号

特集 どうする？ホストコンピュータ

→既存ホストの再構築への取り組みが加速している。C/Sシステムへの移行ばかりではなく、ホスト上でプログラムの再構築、一部を残してC/Sへの移行などいろいろな動きがある。ホストの再構築の方法は。

特集 PostgreSQLの実力

→オープンソースのDBMS「PostgreSQL」を使うユーザが増えているが実際に使ってみると128ユーザ、1000万件でも性能の劣化はないが、1000万件のロードに12時間かかるなどの仕様上の注意点もある。

○日経ネットビジネス 12月号

特集 「ドットコム企業」に生まれ変わる

→インターネットをビジネスの核に据えた企業＝「ドットコム企業」が次々と生まれている。企業の市部門で取り組むのではなく完全に専門会社で、自社の未来をEC事業に託す企業もある。

特集 お客を呼び込むアフィリエイト

→「アフィリエイト」は参加者のサイトにECサイトへのリンクボタンを置き、このリンクを経由してやってきたユーザがECサイト出商品やサービスを購入すればそのサイトに手数料を払うというもので、ECサイトの集客と売上を高める手段として注目されている。

○PCWORLD 12月号

特集 MERRY e-X'mas

→最大の商戦期＝クリスマスに日本のECが飛躍する。すでにインター

ネットで買えないものが無いような状態となった現在、どんなクリスマスギフトにも対応できるECが去年はアメリカで、今年は日本でブレイクする。

特集 ミレニアムPCプラットフォーム

→2000年にはパソコンはその動作周波数が1GHzとなり、性能の向上は続くように見えるが一方で低価格/無料パソコンが市場に出てきている。高性能化とローコストの2方向になりつつある現在パソコンのアーキテクチャはどの方向を示すか。